

住む家を失った人などを受入れ感謝されています

高齢者福祉施設
宮城野の里



長期支援の相馬由里さん(左)と御代田祐介さん

高齢者福祉施設宮城野の里（施設長小野ともみ）では、通常の利用さんの他に津波で住む家を失った人、帰る場所のない介護の必要な高齢者など 30 名を受け入れて大変感謝されています。

蒲生の避難所から移ってきた 61 歳の女性は、津波の恐怖の様子を涙ながらに話してくれました。「地震のあとゴォーッという音がして濁流と化した津波はすぐ近くまで迫っていました。4 トン車が近くに来ていて、貴重品を取りに戻ろうとしましたが、そんなのはどうでもいからと車に乗せられました。避難所になっていた体育館に避難しましたが、そこにも津波が押し寄せ更に逃げましたが、そこで亡くなった人もいます。近所でも亡くなった人、生き延びた人その違いは紙一重でした。」と話します。自宅は土台を残し、全て流されてしまいましたが、地震保険では 2 千万円をかけていたのに半分の 1 千万円しかおらないといひます。津波で全てを失い衣類も頂き物です。国は被災した人にきちんと補助をしてほしいと話していました。

宮城野の里には、今全国の民医連から 6 人の介護職員と 2 人の看護師が応援にはいっています。看護師は岡田小学校の避難所で医療支援をしており、介護職員は、宮城野の里で生活支援に当たっています。東京民医連の御代田祐介さんはパソコンで、応援に入る人のローテーションなどを管理しています。千葉の相馬由里さん（沖縄在住）は、「沖縄にいるとき民医連ではお互いに支えられているという気持ちがあったので、今回は何かしたいという思いが強かった。」と話します。そして 3 ヶ月間の支援に入っています。

宮城野の里には、福田町地域包括支援センターが併設されており、「福祉分野で地域の方の相談を受けたり、民生委員さんも相談にはいたりして、日常的に地域と連携がとれていることが、福祉避難所として地域に貢献できているのでは。」と特養準備室室長の海和隆樹さんは話してくれました。

仙台市新浜付近の津波被害の様子



(2011 年 4 月 4 日 撮影 宮城民医連 神馬 悟)

園児が楽しめる絵本があれば

下馬みどり保育園



早い開園が待たれる下馬みどり保育園

多賀城市下馬に 4 月 1 日、新築で開園する予定だった「下馬みどり保育園」が、震災の影響で開園できず仮園舎で保育を始めています。

仮園舎は多賀城市市民サポート活動センター 2 階です。菅原和子園長は、「調理の設備がないために給食が出せないでご不便をおかけしていますが、園児は仲良く過ごしています。」とのことでした。何か不足しているものはありませんかの？の質問に対しては、「園児たちが楽しめる絵本があれば」と話していました。

